

水稲新品種「アサシオ」について

岩下友記・新屋明・松元幸男・山川恵久
(鹿児島県農業試験場)

IWASHITA, T., SHINYA, A., MATSUMOTO, S. and YAMAKAWA, Y.
A New Variety of Paddy Rice Plant "Asashio,"

かねて育成中であつた、水稲西南9号は、昭和41年から鹿児島県の二期作地帯で一期作用の奨励品種として採用され、普及に移される事になり、通称名を「アサシオ」と命名されたので育成の経過および特性の概要について述べ参考に供したい。なお本品種の育成に直接従事した職員は、朝岡純隆外4名と筆者らである。

来歴および育成経過

アサシオは、昭和29年鹿児島県農業試験場育種部において「巴まさり」を母として「藤坂5号」を父に人工交配したものである。ついて同年九州農試指宿試験地の温泉熱利用により世代促進を行ない、その後は昭和31年から系統育種法にうつして選抜、固定をはかり昭和35年「西南9号」の系統名を付しその翌年から関係各県に配布し地域適応性を検定したところ、その成績良好と認められ、昭和41年(F₁₂)水稲農林179号として登録され通称名を「アサシオ」と命名された。

特性概要

1. 形態的特性、稈長は巴まさりよりやや長くて、偏穂重型で成熟期の草状や熟色は良好で、ふ先色は褐色、脱粒性難、また粒着の密度は中、見かけの品質(外観の品質)は上の中から中の上で、極く僅かながらコシヒカリに劣るが食味は良好である。
2. 生態的特性、熟期は巴まさりより1~2日遅く、越路早生よりも1週間以上早い極早生種である。葉いもち病、穂首いもち病はやや強であり、穂発芽性は中位、耐冷性はやや弱と考えられる。倒伏性の強弱については巴まさり、コシヒカリ等と同程度で弱である。
3. 適地および奨励品種の採用県、アサシオは、いもち耐病性がやや強くて、多収良質の極早生種であるから、奄美大島を除く鹿児島県下二期作地帯の一期作用品種として適しており、特に労力不足で収穫作業が問題となる場合に有利と思われる。

第1表 特性概要

形質	品種名	アサシオ		
		アサシオ	(比) 巴まさり	(比) コシヒカリ
出穂期	月日	6.26	6.24	7.5
成熟期	月日	7.26	7.23	8.5
稈長	cm	80	72	83
穂長	cm	18.0	17.1	18.3
穂熟数		14.8	18.0	19.0
穂熟期	の	早の早	早の早	早の晩
稈の細さ	太無色性	中ム褐難	やや細ム褐難	中ム白難
ふ先の脱粒性	芽	中~やや易	中~やや難	極難
品質	質	中の上	中の中	上の下
米重	kg/a	39.2	35.0	39.5
玄米重	kg/a	19.3	19.2	19.6
葉いもち病	病	やや強	弱	弱
穂首いもち病	病	強	弱	弱
穂紋	病	やや強	やや弱	強

調査年次、昭35、36、37、38、39年までの5年間のもの、耐病性検定は、県内現地および稲橋分場、大分農試に依頼したものである。

4. 栽培上の注意

- (1) 極早生種であるから、暖地の移植栽培では、苗代日数をコシヒカリ、越路早生より10日程度短くする。
- (2) 倒伏性は、コシヒカリ程度の弱であるから倒伏を助長するような肥培管理をしない事。
- (3) 穂発芽性は、中~やや易であるから、適期刈取と乾燥法に留意する

5. 命名の由来

暖流の影響をうける西南の地において、多収でしかも良質の品種であることにちなんでいる。

むすび

本品種は、生育期間の短い極早生種で、しかもいもち病に強く多収良質という長所を備えているので、二期作地帯において最適と思われ、また飼料、園芸作物等後作物を導入する場合も極めて有利である。しかし稈がやや弱くて、穂発芽性の点で難点があり、この点栽培上留意しなければならない。